

## アンケート

- A 同志社の一貫教育とは具体的にどのようなものとお考えですか？
- B 同志社における一貫教育の現状と改善すべき具体的な事がらについて。
- C 一貫教育にかんして大学・高校・中学校に望むこと。

小田 幸信

〈女子大学助教授・英語〉

大学学生の中で同志社各校からの進学者の占める比率が少ない現状からみて、「一貫教育」を問題とすることは少しおかしいかも知れない。

しかし、いちおう同志社英語教育の目標としては、中学から大学まで教育した場合に、少なくとも①「話すこと、聞くこと」が十分にできなければならない。②大学を卒業した時点において基本となるものは「読む力」であるから、速読、多読の

能力をつけなくてはならない。

そして、そのために、中学校から大学まで、具体的に、どのように教育すべきかを検討し、また、外部の学校に対しても、同志社に進学するためには、それに対応するだけの実力をつけさせるよう仕向けなければならない。

同志社内部に関して言えば、中学、高校では、外人教師や、ランゲージ・ラボラトリーを利用して聞くこと、話すことを教えている。ところが、この生きた英語の勉強も大学で中断してしまう場合が多いのではないだろうか。せっかく中学校から外人教師について勉強しても、続けなければ忘れてしまつて、外部から来た人と同じになってしまう。

そこで、同志社各学校間の連絡を緊密にしたり、一貫したカリキュラムの編成をするために語学研究センターを作る必要があると思われる。外人教師や、他の外国語も含めて運営してゆけばよい。

また、教材用の録音テープ、その他の資料にしても、現在は各学校がそれぞれ購入しているようだが、語学研究センターに備えておけば、共同利用できるから、経費の節減にも役立つであろう。

同志社各校の英語の教師は個人的には知人が多いけれども、学校が分散しているために集まる機会が少ないので、やはり、

研究センターがあつて、各学校の状況を交換したり、タテ、ヨコの対策の練つたりすることが必要だと思つ

とにか、各校の足並みを揃えて、気運というか、機会をつくる必要があるのではないだろうか。

\*

北垣 宗治

〈文学部教授・英文学〉

A 一貫教育という場合に、二つのことが考えられる。(一)教育理念の一貫性。(二)教育を受ける主体である生徒、学生の一貫性つまり、中学から大学までの十年間の教育を一貫して受けることが望ましいとする考え方である。同志社の教育理念は創立者新島襄があまりにも明確に定めた通りであつて、方法や強調点のおき方はちがつても、「同志社」という名を冠している限りはそれに一貫して忠実であるべきだと考える。次に学内高校から(共学の)大学に進む生徒数の、新入学生総数に対する百分比は、だいたい十五パーセントであることに注目したい。あとの八五パーセントの学生は他の高校の出身者なのである。この率が続く限り、(二)の意味での一貫教育は大学の段階では成立しないと考える。

B 同志社には一貫教育の具体的なプログラムはほとんど存在しないように思う。教科の面で今後もプログラムをたてるとすれば、それはキリスト教教育と英語教育であろう。私は後者について少なからず希望を抱いている。去る十一月三日の文

化の日には、同志社大学英文学会の主催で、「同志社における英語教育」という題のもとにシンポジウムが開かれ、各学校から参加した英語の先生と、学会員との間にすい分熱心な討議が重ねられた。こうした企画を基礎として、具体的なプログラムがたてられるものと考え

C 無責任な発言かもしれないが、同志社中学と同志社高校とは、一日も早く合体して、一貫教育の実をあげてほしい。私は中学や高校が、ほとんど生徒を鍛えて、それでも出来ない生徒は父兄を呼んで退学させるほどに責任をもつた教育態度を堅持されていることを見聞きする。そこで、その同じ態度を大学にも心から望みたいと思う。英語であれ、英語以外の外国語であれ、二年間でそれぞれ八単位ずつ、計十六単位を履修するよう定められている。しかるに、同志社大学における外国語の再修生がのべ八千名を超えるという現状からして、私は、三年間で外国語十六単位を履習しなかつた者には、学則二十九条を適用して、諭旨退学させるといふほどの元気を、大学が示しうる日が一日も早く来ることを期待してやまない。

\*

辻 忠 一

〈舎里中・高校教諭・英語〉

A 同志社の一貫教育というからには、他の学園では見られない同志社独特のものであらねばならない。社会状況がいかに変化しようとも、同志社が世界にほこりうるものは、新島精神で

ある。そしてこれは、単なる御題目におわつてはならない。われわれは、良心の充満した、国際的視野に立つて物を見ることのできる人材を育成しなければならぬ。これくらいのことはおよそ同志社に職を奉ずる者は、全員熟知のはずであるが、問題は、それがどの程度実行されているかという点にある。わたしがあえて、御題目におわつてはならないと強調する所以はここにある。烏丸今出川の交叉点で、むづかしそうな原書を小脇にかかえて、平気で信号無視をしている学生たちをよく見かけるが、これらの学生たちが、願わくば学内高校の出身者でないことを祈っている。

B A項においては、一貫教育の到達すべき理想像について回答したが、本項においては、英語教師としての立場から回答したい。まずあげられることは、学内諸学校間のより緊密な連絡ということであろう。これは何も英語教育だけに限ったことではないが、特に英語において名声を博している同志社学園においては、より一層留意されるべき点であると考え。具体的に言えば、まず、各中学校、高等学校の英語教員間において、それぞれの学校における研究課題等を持ちよって、お互いに話し合う機会をつくる。さらに望ましいことは、各中・高校間における教員の交流である。現状のままでは、ただ学内の中・高校であるというだけで、全くよその学校といった感じがするのだが、この点いかがなものであろう。

つぎには、高校・大学間の連絡であるが、このことはC項において回答する。

C 昨年の同志社大学英文学会において論ぜられたように、同志社語学教育研究所(仮称)が、一日も早く設立されることを望む。ここにおいては、学園内のすべての語学教師があつつまりあらゆる点から、語学教育について、討議し、研究を進めるのである。これこそ、一貫教育を充実させる上において、必要不可欠からざる機関であろう。

\*

John M. Rasche

〈中学校講師・英語〉

私は同志社中学で英語を教えて約五年半になります。アメリカ人で日本語も話さず、職員会へは参加したことがありませんので、私の見解は多少歪んだものであるかも知れません。しかし英語教師の会にはしばしば出席いたしました。表面的には、その会合で私の見る限り、中学、高校、大学の関係はないように思われます。英語教育に関し体系化された教課の作製においては全然ないといってもいいでしょう。こういいますと教師間の関係も薄いと思われるかも知れませんが、私のいる中学校では教課の内容や具体的な教育についても自由な討論をしております。他の学校の授業参観をしますし、他から先生を招き討論もしオープンな雰囲気を持っています。このすばらしい自由な雰囲気のおかげで私たちはお互いに刺激し合い改善しあっているのです。このことは、前述致しました中・高、大学の縦の繋がりを否定するものではなく、かえって強めていく基礎となるものか

と思います。私は毎年多くの生徒を教えますが、彼らが高校であるいは大学でどのような勉強をし、どのように発展していくのかはさだかではありません。もちろん私の教育の成果がどの程度あるのか、また高校で、あるいは大学で必要とするだけのものを教えたのかどうかは解りません。私たちは、過去二年間新しいオーラル・メソッドを採用し、これからさらに一年続けようとしています。この場合にも、生徒の将来への影響もこの方法の適否は今のところ解りません。幸いにも私は大学の学生を教える機会があり、たとえ彼らが私の教えた生徒でなくとも、

一般的に彼らが何を欠き、何を必要としているかを推察でき、それを通して私の中学での教育のあり方を考えることができます。なるほどこれは私の教育への一助とはなりますが、もし専門的な助言が大学教授や高校教員より得られたならば、その効用はより確実となり、また大きくもなるのではないのでしょうか。中学、高校、大学間の先生のパネルディスカッションなりシンポジウムが設けられ、そこで各段階より生起する種々の問題ならびに、現状等を自由に話す場が設定されれば、各校間の関係も密になり、その教課のみならず他の面でも得るところは多いかと思えます。またそうすることによって新軌軸や新しい可能性が生れるのではないのでしょうか。私が最も興味あるのは、そして、これはすべての先生についていえることだと思つのですが、まず最上の先生であり、生徒に可能なかぎりの最上の教育を施したいということであります。申すまでもなく先生の教育方針とか教育内容により生徒は大きく影響されるものです。ですか

ら私は英語教育がどうあるべきか、また私たちはどうすべきかということを常に考え心掛けて生徒に接していきたいと思えます。前述致しました中学、高校、大学の「一貫教育が教育の方法や内容を向上させるのに役立つならば、私は「一貫教育を反映した教課内容を後押しして行きたいと思えます」、私はこのこと「一貫教育が充分答えてくれるものと思えます」。

(翻訳協力・丹羽耕太郎)

\*

匿名名

〈女子中・高校教諭・英語〉

A 一貫教育の目的は中学・高校・大学に至るまでのカリキュラムの統一もその一であろう。その目的達成のためには、中学・高校・大学間の密なる連絡が必要である。例えば、英語教育に関して一言すると、言語教育研究所を設立し、同志社独自の教科書編纂を行うなど、前述の目的を達成するための研究と協議を相互に行う。

B A項の目的を考えると、現在最も欠けているのは、学校間の連絡、協議の問題である。中学・高校内部においても理科系文化系のカリキュラムの編成が充分に、また適切に行なわれていないようであるし、中学と高校間の連絡も少ないようである。まして、大学と中・高校間のことは言うまでもない。

大学においては、同志社四高校からの出身者に対し、特別の考慮をなされるよう望むものである。例えば、中・高校ですでに

L・Lを使用して授業を受けてきているのであるから、機械操作の段階をとばして、次の段階からはじめるような特別クラスを作ってほしいと思う。

C 一貫教育の目的を達成するための連絡を密にすることが考えられるのであるが、まず教員の親睦的交流をしてはどうだろうか。この親睦を具体的に意義あらしめるためには、例えば中高校で行なわれる暗誦大会、女子大のシェークスピア祭などが行なわれるとき、同志社内部の学校に呼びかけあうところからはじめなければならないと思う。そのことによって相互の立場を尊重する気持ちが出てくるのではないかと思う。

\*

永田千種

〈高校教諭・数学〉

A 一貫教育という言葉が安易に用いられると、中学が高校への、高校が大学への道程という意識を生じる怖れがある。

数学教育においても、中・高・大学それぞれの段階において目標が追求され、学生生徒の実態に即した個性ある指導がなされるのが望ましい。各校が自由に、独自の教育を進められるような雰囲気大切にしたい。また、数学教育の一貫性は、その技術的側面にあるのではなく、数学的な考え方を、中・高・大学各段階でどのように発展させるかに焦点をあてて考えるべきであらう。

B 高校の数学においては、社会生活のための、また将来専門教

から最終製品までを同じ企業体において一貫した方針規格の下になす作業形態」これはよくわかる。しかし、一貫教育という言葉のもつ意味はそんなに簡単なものではない。

新島先生が明らかにされたように、同志社の精神的基礎はキリスト教精神と新島精神であることは、同志社で働くものすべてが知っている。これこそ同志社教育の中に常に一貫して流れているべきものであり、各教科の中に何らかの形で反映されていると思う。学生数——特に大学の問題ではあるが——の急激な増加、それに伴う諸事情から、この立学の精神がどのようにいかされているかを考え直すのは当然である。とはいうものの他の学校がつくったからといって俄かに一貫教育委員会などをつくる必要はなからう。現状が改善の余地のない完全なものなどというつもりはないが、「教室」から離れた議論のための一貫教育論は私の好むところではない。高校の英語では、その指導要項にのっとって、現実には各地の学校から入学したさまざまな生徒に高校で学ぶべきことを教えているわけである。教師も各人各様その教え方にはいろいろ特徴がある。学年によって担当者が変わるのが普通である。例えば文法について考えてみる場合、その中の一項目の広がりや深さは限りがない。中学校ではそれに適した程度のもので、高校では一歩進んだものを、大学では更に高度なものを——学部によって大いに特色を異にすると思うが——それぞれの場であるべきことを良識をもって、最善がつくされればすばらしいことだ。

立学の精神を心にひめ、教師と学生生徒が愛情と理解と信頼

育を受けるための基礎訓練が重視されるのはいうまでもないが数学的な思考力の育成も大切である。現実の具体的問題を抽象化し、分析し、更にまた体系化する能力、論証の方法、直観と柔軟な思考によって発見的方法で問題を処理していく力などが数学の学習を通して開発されることが望ましい。こうした工夫は、現在の中高の教育制度の中では、なかなか育て難いが、同志社は恵まれた環境にあると思う。中学、大学の担当者とも、互いの立場を尊重しつつ、意見を交換して、一貫性を生かすのは、有益であらう。

C Bで述べた方向にしたがって、中・高・大学の担当者が各段階で、どのような数学を、どのように指導するかについて討論する機会をもつことが望ましい。

また、さまざまな個性と能力をもつ学生生徒個人について、その可能性を出来るだけ伸ばすために、一人一人の成長の記録を交換し、中・高・大学と一貫した、きめの細かい指導が出来ればよいと思う。

\*

匿名

〈高校教諭・英語〉

「ひとすじにつらぬくこと。一理を以て万事を貫き通すこと」(広辞苑)。「初めから終りまで同じ方針で通すこと」(辞海)。「一貫」という言葉を辞書はこのように定義している。「一貫作業」とは普通使うが、辞書では次のように説明している。「原料

でかたく結ばれ、毎日を大切にしていこうという目立たないが大きな努力の積み重ねが、各々の段階で行なわれることによって自然に一筋の流れができると思う。

\*

久保政義

〈中学校教諭・聖書〉

A 同志社教育の特質がキリスト教による教育を行なうという立場に立つたれば中学より大学にいたるまで一貫した宗教教育のカリキュラムのもとに教育することだと思ふ。特に今日のようになら大学が大きくなると来ると大学における宗教教育は非常に困難であるがゆえに、中・高校に基礎をおき、それを大学の大衆に浸透させて行くような方法こそ一貫教育の特長として実施されるべきではなからうか。

B 宗教活動の面ではようやく中高が春秋二回の宗教活動をする程度で一貫教育のことについては全く等閑にふせられているのが現状である。全同志社の宗教教育にたずさわっている教師が集まって一貫した宗教教育の問題について研究してはどうか。

C 各学部及び学校が小さな自分の中に閉じこもらないで全同志社という立場に立って考えるようにならなければ一貫教育の問題などは実のならないもので終ってしまつてであらう。この問題と真剣に取組むのなれば、まず各自が自分の小さな立場を反省する必要がある。

## 土肥 昭夫

〈神学部教授・宗教授〉

A 同志社に学びかつ教えるものが研究と教育の自由自治を場としつつ、同志社に固有な教育理念としてのキリスト教的な人格主義をえらびとり、理解し、これを生かしてゆくことができる。同志社の一貫教育は具体化します。それ以外の動機が入ってくれば、一貫教育は成立しません。

B ですから、たとえば中学校（高校もこれに準じる）に入ってからその成績さえよければ、エスカレーター式に高校へすすむことができるという唯物主義的功利主義的意識は、一掃する必要があります。そういう意味における中学、高校の大学への依存意識はさききのべた同志社を一貫する教育理念とちがうからです。

もう一つ考慮すべきこととして教員、職員が同志社の教育理念を理解する必要があること、したがってその採用に際してこのことをよく理解していただくように努めることです。単に豊富な知識や明晰な頭脳、優秀な技術だけでは不十分といわざるを得ません。同志社の各学校でこのことが一貫して実現されるときに同志社の一貫教育が成立するのではないのでしょうか。

C 大学・高校・中学を問わず、教員が本当に研究し、教育していくことをとおして正しい意味で各校における相互の連帯性

がうまれます。特に大学の教員はこの点においては重大な責任

があります。失礼ながら現在の大学の先生でどれだけのかたがたがそれぞれの分野でトップ・レベルの研究成果をあげていられることでしょうか。優秀な教授の下に優秀な学生（いわゆる優等生でなく真剣に学問をし、本当のものを追究する学生）があたりまわります。岩倉や香里からそういう意味の学生が大学に来ます。一貫教育はそういう方法で具現するのではないのでしょうか。

このような考え方は今日の私立大学教員の研究条件の不備、マス・プロ教育の現状から不可解な考えであるといわれるかたもありましょう。たしかにそれぞれの問題について大いに改善する必要があります。しかしそれと同時にそういうめぐまれない条件の下で立派な研究成果をあげた教員もあること、学生大衆のなかには結構優秀な学生がいることも事実です。キリスト教的な人格主義にささえられた良心というのは物心両面における変革ないし創造の主体的条件だと私は理解しております。

\*

## 中村 幸久

〈商業高校教諭・宗教〉

A 時代と各校の立場、特殊性を超えてキリスト教信仰を教育の場における抵抗の原点とすることです。キリスト教教育の方法が現象的に各校の間で差異があっても問題とはならないと考

## 杉 瀬 祐

〈女子大学教授・聖書〉

A 同志社の一貫教育についての私の理解。

1 一般に一貫教育の目的は、教育目的の浸透をはかり、教育の手段、精神、教科内容、理念などの有効な積み重ねをして、その学校の教育的人間像の総合的な完成を期待するものだ、と理解しています。

2 したがって、同志社の場合、同志社の教育的人間像達成のために、前述の事柄が実施努力されることではないかと考えます。

B 現状と改善すべき具体的な事柄について。キリスト教教育に関してのみ記します。

1 キリスト教教育の目的の不明確さ、同志社教育とキリスト教との関係についてはなはだ不統一で、各人異見を持つておられるのではないかと感じます。殊に、学問と信仰、知識と霊、学校と教会、同志社各学校の聖書科およびキリスト教教育の目標などについて、はっきりした学校当局の指針を承りたい。

2 教育目的の浸透という点に関して、特に多人数の教室、少数の教員は現状では大きな一つの壁ではないでしょうか。

3 全同志社の中心となるような大礼拝堂、および各学校、各学部の小礼拝堂の必要。

4 各学校の学生数の多寡という点、また大学が総合大学で

えます。その他の同志社教育の特色として伝統的にうたわれているものは副次的なものであり、これにこだわるならば同志社教育は硬直化し、原点を見失うこととなります。

B 原点から出発したはずの同志社が、現在、時代の流れによつて原点を見失ないかけています。各校の孤立化と、そこからくるセクシヨナリズムの緊張関係によって形態を維持しているのが現状です。一貫教育を内容のあるものとするためには各校がその特殊性に立脚し、対話と交流をはかるべきです。多大の問題を含むため容易に実現することではありませんが、改善すべき点として次の三点を指摘します。

1 各校における独立採算制を廃止し、総合財政とする。

2 教職員の各校間における人事交流の促進。

3 将来の同志社に対するヴィジョンの形成、それが一部の人のヴィジョンでなく、それが少なくとも教職員間での対話の具とならねばならない。

C 大学の置かれている困難な立場はわかりますが、その困難な状況の中にあっても同志社教育の本質を強く主張する場を見出す方向を見つけてほしいと望みます。

また、大学は中高教員に講座を紹介し、自由に聴講できる制度を作つてほしいものです。

中学・高校は、進学問題からくる弊害をできる限り除去し、

\*

はないなどという点から、一貫教育ということは現実的には大変困難と思いますが、教育手段、教科内容などの連繋を密にして（特にキリスト教教育の場合以下のことは可能と思いますが）それらの特殊性（つまり視聴覚教育とか教授方法の工夫の意味です）と教員の交流、協力を試みてみるのも有効ではないでしょうか。（既にある程度なされていることです）が、それをもっと活発、組織的に）

5 全同志社連合の宗教活動は、今までの歴史をみても、各学校学生徒に、同志社意識を与えて育てるのに有効でした。だんだん組織が大きくなるにつれて、いっそう、そのような全同志社連合の宗教活動が活発になされることが必要ではないでしょうか。教育組織や制度ではもはや一貫性を保ち得なくなつたとしても、そうした宗教活動が精神的に一貫教育を支える点もあるでしょう。

#### C 希望事項

長所と短所は背中合せと申しますが、必要ならば、各部門ごとの懇談研究を積み重ねて所期の目的への着実な前進を希望します。

\*

佐野昇

〈香里中・高校教諭・宗教〉

A 単に形式的、技術的なレベルにおける一貫性というよりも、教育理念的レベルにおける一貫性、たとえば教育原理、

（高校に対して）学力向上のため、大学と協調して何らかの対策をたてる必要がある。

（中学に対して）特に基本的な生活態度の教導学習意欲の向上を目指す必要がある。

（附記）

1 特に中学教育を重視する必要がある。

2 中高各教科と大学の関連専門部門との協力体制を必要とする。

\*

今井晋

〈法学部教授・宗教学〉

A 同志社の一貫教育とは、同志社傘下の各教育機関、主として中学・高校・大学を通して、基督教主義にもとづく人格教育具体的にいつて、新島精神の体現者、すなわち「良心を手腕に運用する」人材を養成する教育が効果的に実施されることであると考える。

したがって「学科面」における一貫教育、たとえば「同志社の英語」といわれるような、他校に比べて、常により高等な語学教育を中学から一貫して施すというような試みも教育面の特徴として大いに考えられてよいと思うが、創立者のいわゆる「幾百幾千の新島を養成する」という「精神面」の一貫教育が、あくまで基礎になることを忘れることは出来ない。この意味で一貫教育の成果は、豊かな精神歴と優れた学歴を兼備する同志社

教育方針、同志社の目指す理想の人間像などの一貫性でなければならぬであろう。すなわち、キリスト教精神および新島精神にもとづく人間教育と人格形成が中軸となった教育の一貫性でなければならぬ。

B 現状は、残念ながら、単なる進学における自動的継続的体制と、形式的キリスト教主義の保存、新島精神の保持においてその命脈を保っているといつても過言ではあるまい。改善すべき事柄をあげると、

1 キリスト教主義学校としての教育方針を確認徹底し、関連教科教育の充実強化を計る。

2 キリスト教精神と同志社精神の現代における意義を明示し、教職員にその必要を納得させる。

3 経営方針から教育現場、事務の末端に至るまでキリスト教主義学校にふさわしい在り方をとる。

4 各個学校主義の悪弊を去り、一体としての同志社の実現のために、経理、人事の相互交流をおこなう。

5 相互不信、各個主義を排し、同志社教育の一体化のために他校との相互研修会をおこなう。

（以上は、一貫教育は単なる技術的問題において実現出来るものではなく、同志社の名実共なる一体化を必要とする、との考えに由来する。なお可能ならば小学校の新設、幼稚園の強化、キリスト教教育関連部門の拡充強化）

C （大学に対して）中、高校を育成するように積極的に刺激、協力を頂きたい。

人を不断に生み出すことであると思われる。

B 「同志社は隆（さかん）なるに従い機械的に流るるの恐れあり。切にこれを戒慎すべき事」といわれた創立者の警告の言葉は、遺憾ながら一貫教育の現状にも、あてはまる。

従来、大学でも、一貫教育について全面的、積極的に討議される機会が少く、どちらかといえば、この問題については受身の姿勢であった。それはひとつは大学のマスプロ化に伴い、同志社中・高校からの入学者の学生全体に対する比率が下がっていること、また入学者はもろろん一視同仁に扱うから内部からの入学者を区別して特に注目しないことなどによるところが多いと思われる。そのうえ、これは一貫教育を施す学園に、ほぼ共通する悩みであろうが、中高からの一貫教育における比較的上位の生徒が多く官公立の大学に脱出する傾向があるため、同志社大学において、外部からの入学者に対し模範となるような学生の内部からの入学に余り多く期待出来ないことは遺憾なことである。

これは大学自身の責任でもあり、学府としての水準の向上に一層の努力が期待されるときにも、一貫教育をうけるものには大幅に奨学金でも出して、せめて経済面における負担の免除でもはかなければ、説教だけでは現状を改めることは困難であろう。

C 一貫教育の現況を判断するため追跡調査を含む基礎資料を各校が交換すること。

内部からの新入生には、学園なれど受講態度がわるかった

り、宗教はもう沢山と「宗教学」の免除を叫んだりするものもいる代り、香里高校から入ったひとにぎりの大学生が同志社精神の頽廢をなげくのあまり「裏の若者たち」という新聞をつくって精神作興を呼びかけ、この費用を自分たちのアルバイトでまかなう姿などは、一貫教育に対する希望のともしびとして胸にきざまれる。

\*

## 林 彰

〈香里中・高校教諭・英語〉

A 教育原理の確認。同志社のような学園で一貫教育の問題を考へることは、一見たやすくみえるのですが、いざ「具体的」に説明する段になると、なかなかむずかしい気がします。こうした印象は、もともと「塾」的な結びつきで発足し、以来一貫して人間の内面の優位を主張してきた同志社が、とくに近年の量的膨張によってさまざまな変形を余儀なくされ、その教育理念がますます困難になりつつある今日の現実と、おそらく無関係ではないでしょう。

そこで、いま、同志社における一貫教育とは何かを問う際にもう一度ここで、立学の理想を初心にかえて考えなおしてみる必要があります。この理想は、同志社の期待する人間像とともに、すでに「設立趣意書」のなかに余すところなくつづられているのですが、それは遠く近代日本の黎明期に呈出されたものであるにかかわらず、極度に高度化し、複雑化したわれわれ

の現代にもなお、驚くばかり革新的な意味をもって迫ってきた。

○ いつの世にも、理想は絶えず現実には組み敷かれてきたのですが、いまわれわれにとつて大切なのは、理想を堅持しつつ、それぞれの生き方のうちにこの教育原理を誠実に、主体的に実践してゆくことであるかと思ひます。そして、この点を学び教へることこそ、とりもなおさず同志社の一貫教育であると考えています。

B 触れあひの必要。周知のとおり、同志社は二大学、四高校三中学、それに幼稚園を加えれば文字通りの一大総合学園ですが、これら相互の間でさらに活発な意志の疎通が行なわれる必要がありそうです。話合ひの主題を各校のカリキュラムの内容や運営の実際にしぼって、お互いがもつとフランクに交流しあうことが望ましいのです。教壇の授業に関するかぎり、何を、どう教へるのかという問題を多数が協力して工夫しあうことが大切ではないでしょうか。この意味で、最近の「教育懇談会」は新しい試みとして高く評価されるべきものです。

C 英語教育。語学教育の大切なことは多言を要しませんが、急速な社会情勢の進展にかんがみ、とくに同志社における「語学教育研究所」の設立が望まれます。ここで、中・高・大の担当者、教材の交換、教授法の研究、中高英語教育と教養課程のそれとの連繋等々について協議できるようなになればと思ひます。